

【IP-IF 対応デジタルレコーダ(防犯用)】

分 類	5.1 共通機能	要求数字等
項 目	5.1.1 連続動作など	
要求基準	入力映像を連続記録する性能基準を満足すること。	
要求基準を満足する内容	性能 1: 周期的に被測定機器の電源を停止する必要がなく連続動作が可能なこと。ただし、定期点検や消耗部品の交換による電源停止を除く。 性能 2: 連続記録中に電源を停止 (停電) させた際に、ハードディスクのデータの損失が容易に発生しない性能を持つこと。また、停電発生前の記録画質及びフレームレートと再起動後の記録画質及びフレームレートが同等である性能を持つこと。ただし、この性能が単独で実現できない場合は、被測定機器を補完する UPS (無停電電源装置) と組合せて性能を実現すること。 また、UPS を必須としないレコーダーであっても、被測定機器が UPS との連動機能を具備している場合は、その内容を技術報告書に記載すること。 性能 3: 被測定機器の保証する温度範囲内において、消耗部品を除く被測定機器の MTBF (平均故障間隔) が基準値 (30,000 時間以上) を満足すること。ただし、消耗部品の交換時期の情報は、被測定機器使用者が容易に入手できること。 性能 4: 被測定機器において連続動作中に、ネットワーク応答監視機器からのネットワーク疎通確認に対して応答が可能であること。	
判定内容	NTSC 対応デジタルレコーダは性能 1 及び性能 2 及び性能 3 を満足すること。 IP-IF 対応デジタルレコーダは、すべての要求基準を満足すること。 評価内容 (判定・測定結果等) が記載された技術報告書で判定する。	
測定・評価基準		
IP-IF 性能 1	連続動作性能	
	① 測定方法 RBSS チャンネルのうち 1 チャンネルにおいて、組み合わせ可能な IP-IF 対応防犯カメラを用いて 1/30 秒ごとに变化する被写体を、RBSS 画質 (静止画) を満足する画質設定で記録し、被測定機器の最速録画レートにより 1 時間記録を行う。 ② 評価方法 1 時間記録の内、5 分、30 分、55 分目周辺の連続した各 500 コマの記録を確認する。 再生画像を確認し、コマ抜け数とコマ重複数の合計が下記基準以内であることを確認する。また、被測定機器が接続されている推奨ネットワーク機器 (スイッチングハブ) の当該ポートにおいて、リンクダウンが発生していないことを確認する。 ③ 基準値: N1 ・コマ抜け数とコマ重複数の合計の平均発生確率が、3% 未満 (1500 回中 45 コマ未満) であること。 ・リンクダウンが発生していないこと。	
IP-IF 性能 2	停電保護性能	
	① 測定方法 RBSS チャンネルのうち 1 チャンネルにおいて性能 1 に基づく条件で記録中に、下記の条件下で停電を 5 回発生させ毎回再起動させる。 ＜条件＞ 被測定機器および組み合わせ可能な IP-IF 対応防犯カメラ、推奨ネットワーク機器において、下記パターンにて停電を発生させ再起動させる。 1. 被測定機器のみ停電を発生させ再起動させる。 2. 組み合わせ可能な IP-IF 対応防犯カメラのみ停電を発生させ再起動させる。尚、組み合わせ可能な IP-IF 対応防犯カメラが PoE 対応の場合は、推奨ネットワーク機器の当該ポートのケーブル挿抜においても可とする。 3. 推奨ネットワーク機器のみ停電を発生させ再起動させる。 4. 被測定機器および組み合わせ可能な IP-IF 対応防犯カメラ、推奨ネットワーク機器の全て同時に停電を発生させ再起動させる。	

	② 評価方法 各パターン停電後再起動し記録動作に復帰すること、更に停電発生前の画像が確認できること。また、停電発生前の記録画質及びフレームレートと再起動後の記録画質及びフレームレートが同等であることを確認する。 <u>・また、UPS 連動機能を具備している場合は、提出されている UPS 連動機能についての技術解説書等を確認すること。</u> ③ 基準値:N2 ・各パターン 5 回停電後も記録動作に復帰すること。 ・各パターン 5 回停電後も停電発生前の画像が確認できること。 ・各パターン 5 回停電後も停電発生前の記録画質及びフレームレートと再起動後の記録画質及びフレームレートが同等であること。 上記基準が単独で実現できない場合は、被測定機器についてのみ補完する UPS (無停電電源装置) 装置と組合せて性能を実現できること。	
NTSC&IP-IF 性能 3	MTBF	
	① 測定方法 測定機器の消耗部品として交換時期を明記した書類に記載した部品を除いた、被測定機器の MTBF を申請者の基準に基づき計算する。 ただし、申請者が明示した使用温度範囲内での数値とする。 ② 評価方法 消耗部品と交換時期目安時間が記載された書類を確認し、その書類は被測定機器の使用者が容易に入手できることを確認する。 ③ 基準値:N3 MTBF が、30,000 時間以上であること。	
IP-IF 性能 4	ネットワーク応答性能	
	① 測定方法 RBSS チャンネルのうち 1 チャンネルにおいて性能 1 に基づく条件で記録中に、ネットワーク応答監視機器から ping または独自方式などのネットワーク疎通確認要求を 4 回行ない、被測定機器が応答することを確認する。 ② 評価方法 被測定機器において連続動作中に、ping または独自方式などのネットワーク疎通確認に対して、応答を行なうことを確認する。 ③ 基準値:N4 4 回の応答要求に対し 3 回以上の応答を行なうこと。	独自方式の場合は、ネットワーク応答監視の実現方法を技術報告書に記述する。
機能表示書類	提出書類に、表題「項目」が具備されていることを説明する書類(仕様書、取扱説明書、HP 掲載内容のコピー等のいずれか)を提出すること。	
備 考		

(申請者提出用様式(例)記載サンプル)

【IP-IF 対応デジタルレコーダ(防犯用)】

技 術 報 告 書【型式		測定日	年 月 日																																			
会 社 名: 所属部署: 測 定 者:																																						
分 類 項 目	5.1 共通機能 5.1.1 連続動作など																																					
性能の選択	・UPS 連動機能:【 】無、【 】有 ・被測定機器が具備している性能の内、下記測定に該当するものは性能 1 です。 性能 1 連続動作性能																																					
測定系統図	性能 1 及び性能 2、機能 4 の測定系統図を記載する。 DVD プレーヤー (B) → モニタ (モニタ用 PC (E)) IP-IF 対応防犯カメラ (C) → SW-HUB (D) → 被測定機器 A: DVD プレーヤーに使用する時間が表示されるソフト ネットワーク応答監視機器 (F)																																					
測定器一覧	<table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>機器名称</th> <th>型式品番</th> <th>製造会社</th> <th>校正年月日 (購入年月日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>DVD ソフト</td> <td>例: Test Signals on DVD</td> <td>例: K.M.Lab</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>DVD プレーヤー</td> <td></td> <td></td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>IP-IF 対応防犯カメラ</td> <td></td> <td></td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>推奨ネットワーク機器</td> <td></td> <td></td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>モニタ用 PC</td> <td></td> <td></td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>ネットワーク応答監視機器</td> <td></td> <td></td> <td>()</td> </tr> </tbody> </table>			記号	機器名称	型式品番	製造会社	校正年月日 (購入年月日)	A	DVD ソフト	例: Test Signals on DVD	例: K.M.Lab	()	B	DVD プレーヤー			()	C	IP-IF 対応防犯カメラ			()	D	推奨ネットワーク機器			()	E	モニタ用 PC			()	F	ネットワーク応答監視機器			()
記号	機器名称	型式品番	製造会社	校正年月日 (購入年月日)																																		
A	DVD ソフト	例: Test Signals on DVD	例: K.M.Lab	()																																		
B	DVD プレーヤー			()																																		
C	IP-IF 対応防犯カメラ			()																																		
D	推奨ネットワーク機器			()																																		
E	モニタ用 PC			()																																		
F	ネットワーク応答監視機器			()																																		
添付資料	性能に関する技術解説がある場合は別紙で説明する。																																					
総合評価	総合評価は、下記のとおりです。(該当する項目を○で囲む) 合格／不合格																																					
性能 1 N1	・連続動作性能でのコマ抜け数とコマ重複数の合計 5 分時()コマ、30 分時()コマ、55 分時()コマ 平均発生率(.)% ・1 時間測定中、リンクダウンが発生していない。正常()																																					
			小数点以下がある場合は、(1)桁とする。 ・MTBF は、一般に入力チャネル																																			

性能 2 N2	1. 被測定機器のみ停電を発生させ再起動 <u>① 被測定機器のみ停電を発生させ再起動</u> 5 回停電後も記録動作に復帰すること。正常(☐)自動復帰、(☐)手動復帰 5 回停電後も停電発生前の画像が確認できること。正常(☐) 5 回停電後も停電発生前の記録画質及びフレームレートと再起動後の記録画質及びフレームレートが同等であること。正常(☐) 又は、上記何れも被測定機器についてのみ UPS を使用する条件で性能を実現できること。UPS(必要・不必要) <u>② UPS 連動機能: 無(☐)、有(☐)</u> 2. 組み合わせ可能な IP-IF 対応防犯カメラのみ停電を発生させ再起動 5 回停電後も記録動作に復帰すること。正常(☐) 5 回停電後も停電発生前の画像が確認できること。正常(☐) 5 回停電後も停電発生前の記録画質及びフレームレートと再起動後の記録画質及びフレームレートが同等であること。正常(☐) 3. 推奨ネットワーク機器のみ停電を発生させ再起動 5 回停電後も記録動作に復帰すること。正常(☐) 5 回停電後も停電発生前の画像が確認できること。正常(☐) 5 回停電後も停電発生前の記録画質及びフレームレートと再起動後の記録画質及びフレームレートが同等であること。正常(☐) 4. 被測定機器および組み合わせ可能な IP-IF 対応防犯カメラ、推奨ネットワーク機器の全て同時に停電を発生させ再起動 5 回停電後も記録動作に復帰すること。正常(☐) 5 回停電後も停電発生前の画像が確認できること。正常(☐) 5 回停電後も停電発生前の記録画質及びフレームレートと再起動後の記録画質及びフレームレートが同等であること。正常(☐) 又は、上記何れも被測定機器についてのみ UPS を使用する条件で性能を実現できること。UPS(必要・不必要)	ル数毎に異なる値であるので注意すること。
性能 3 N3	・MTBF(,)時間 ・消耗部品 : 有(☐) / 無(☐) ・被測定機器適用タイプ()	
性能 4 N4	ネットワーク疎通確認方式は下記のとおりです。(該当する項目に○を記述) [☐] PING 応答、[☐] 独自方式(技術解説書提出要) ・評価測定値: ネットワーク応答監視 = ()回 / 4 回	
機能表示書類	下記書類の中で○印の書類を添付します。(複数選択可能) [☐] 仕様書、[☐] 取扱説明書、[☐] HP 掲載内容のコピー、[☐] <u>技術解説書など</u> [☐] UPS の <u>補完が必要な場合、その UPS の仕様書類</u> [☐] 性能 3: 消耗部品と交換時期目安時間が記載されている書類 [☐] <u>上記が選択されている場合、使用者が消耗部品と交換時期の情報を容易に入手できることを説明した書類</u> [☐] <u>UPS 連動機能についての技術解説書等(付録資料-10 による。)</u>	必要部数は別途指定
仕様書 取扱説明書 HP 掲載	頁、()行目の定格・性能等の欄に、上記項目の機能が記載されています。	
責任者押印等	上記内容を申請いたします。 測定責任者: (電子入力で代用可: 自筆不要)	測定責任者 押印欄

注記 氏名・年月日欄等は電子入力で代用可能です(自筆不要)。

【付録資料-10】 UPS 連動機能 確認用チェックシート

“UPS 連動機能” 確認用チェックシート

技 術 報 告 書【管理番号 】		記入日	年 月 日
申請会社	会社名： 所属部署： 責任者：		

【推奨 UPS】

・推奨 UPS が有る場合は記入してください。

No.	メーカー名	型式（品番など）	出力容量（VA/W）	確認時期	オプションなど ⁽¹⁾
例	オムロン（株）	BY75SW	750VA/450W	2012/xx/xx	—
例	オムロン（株）	BY50FW	500VA/300W	2012/xx/xx	—

注⁽¹⁾ 推奨機器とするためにオプション類が必要な場合は、その型式（品番など）を記入する。

【連動方式】

・UPS と接続する方式をすべて記入してください（UPS と連動しない場合は空白とすること）。

I/F 仕様	方式の有無 有る場合は○	接続端子 該当するものに○	機 能 該当するものに○
接点		☐ プッシュ式ターミナル ☐ D-sub コネクタ ☐ その他（ ）	☐ 停電信号受信 ☐ バッテリーLow 信号受信 ☐ 自動復帰 ☐ その他（ ）
RS-232C		☐ プッシュ式ターミナル ☐ D-sub コネクタ ☐ その他（ ）	☐ 停電信号受信 ☐ バッテリーLow 信号受信 ☐ 自動復帰 ☐ その他（ ）
USB		—	☐ 停電信号受信 ☐ バッテリーLow 信号受信 ☐ 自動復帰 ☐ その他（ ）
LAN		—	☐ 停電信号受信 ☐ バッテリーLow 信号受信 ☐ 自動復帰 ☐ その他（ ）
その他			☐ 停電信号受信 ☐ バッテリーLow 信号受信 ☐ 自動復帰 ☐ その他（ ）